ひかりのこ

3月園便り

認定こども園
聖ミカエル幼稚園
２０２５年2月14日

月主題：希望をもって

「大切なこと」

今は2月中旬。あっという間に3学期は過ぎていきます。4月に入園した0歳、1歳、年少のお友達。転園してきたお友達。8月に入園した満3歳のお友達。今では園に慣れ、担任の先生が大好きになりました。乳児さんも、幼児さんもみんな背丈が伸び、園の中で楽しんで生活をしています。

子どもたちの生涯にとって、乳幼児期はたったの6年。これから子どもたちは、上の学校に行って、たくさんのことを学び、たくさんの人と出会い、たくさんの興味を持って、自分の生きる道を探していきます。

13年前まで、私は中学校で担任をしていました。受け持ったクラスには様々な生徒がいました。大きな夢をもっている子、深い悩みの中にある子、なにかに熱中している子。どの子もかわいく、どの子の力にもなりたいといつも願っていました。たった3年間の中学校を過ぎていく子どもたち。子どもたちには次の進む道が広がっていました。

中学校を去るとき、私は子どもたちに「人生で一番大切なことは、人と人が心を通わせること。たくさんの人に出会ってほしい。」と伝えました。

幼稚園の子どもたちを見ていても感じます。まずは大好きな担任の先生に出会います。だんだん大きくなるとお友達を意識し始めます。次に「仲間」として複数のお友達を意識していきます。子どもによってその変化は様々ですが、大人である先生と、子ども同士のつながりの中で、子どもたちは少しずつ世の中で人と共にいる楽しさを学んでいくのです。

大人になっても、たくさんの人と直接かかわるのは苦手、という方もいらっしゃるでしょう。でも、ご自分のやり方で、社会とのつながりを持っていることと思います。

そのスタートにこの乳幼児の施設があることを、私たち職員も意識をもって保育に臨んでいきたいと思います。

園長　渡部　良子

キリスト教保育

「二そうの船」

イエスさまの時代、イスラエルの漁師たちは二そうの舟で網を使って魚をとる漁をしていました。沖に出た漁師たちは、舟と舟の間に網を渡して、それぞれ反対方向に舟を進めて網を広げます。そして、魚の動きを読みながら二そうが弧を描くように囲い込んでいきます。魚をうまく追い込むためには、互いに息を合わせて、音を立てすぎないように網に追い込む「協力する力」が欠かせませんでした。そうやって得た魚を、他の仲間たちが持ち寄る他の様々な恵みと分け合い、暮らしていたのです。

神さまは最初の人を創造された後、「人が独りでいるのは良くない。彼にふさわしい助け手を造ろう。」と言ってアダムと共に生活する「助け手」のエバを創造されたと聖書は伝えます。エバとは「いのち」という意味です。人は一人ではなく、誰かと共にあることで、生きている喜びや、苦労を共に担い、わかち合うことができる、自分とは異なる「いのち」と出会います。４月からの新しい出会いを通して、子どもたちがまた一歩二歩と成長する姿を、ご家族の皆さんと共に見守っていきたいと願っております。

チャプレン　司祭　上平　更